

# 島根県テニス協会

## —— これまでのあゆみ

島根県テニス協会は昭和38年3月25日に前身の島根県庭球協会が結成されて以来、60年間歩みを続けて今日に至っている。この間、昭和57年のくにびき国体、平成4年のスポレク祭、平成7年のねんりんピック、令和元年のろうあ者体育大会と、全国規模の大会を開催してきた。またその実績を生かし、平成28年に島根県で開催された全国高等学校総合体育大会の際にも大会の成功に一役を担った。

さらに、日本テニス協会、中国テニス協会をはじめ、各市町村の地域協会のご支援をいただきながら各種大会の開催、ジュニア選手の育成、強化に努めてきた。

特に、令和2年以降のコロナ禍にあっても、独自の感染防止ガイドラインを設けるなどして大会を運営した。今回のような突発的な危機は今後も起こり得ることであり、常に備えが必要との教訓にもなった。

## —— 現在の状況

現在、本県出身のプロ選手として、錦織圭選手と細木咲良選手が世界の舞台で戦っている。特に錦織選手は、世界のトップ10プレーヤーとして長く活躍するなど、日本人選手として異次元の活躍を見せてくれており、平成26年の全米オープン決勝に進んだ際は、くにびきメッセにてパブリックビューイングを開催、県内から900人の方が応援に駆けつけ、最高の盛り上がりを見せてくれた。

細木選手も4大大会の本選出場と勝利を目指して転戦する中で、毎年国体に本県代表として出場してチームを牽引してくれている。さらに車いすテニスでは、三木拓也選手がパラリンピックでのメダルを期待される存在となっている。こうした選手の活躍はテニス関係者のみならず、県民に勇気と希望を与えるものであり、強化育成の道筋が点から線に繋がったことを現すことにはかならない。それは同じく世界を目指すジュニアの選手たちにとって大きな目標であり、自信となるものである。

また、日本テニス協会公認大会として、県協会が主管している玉造山陰ベテラン大会は、令和5年で11回目を



平成26年 全米OP決勝パブリックビューイング

迎え、全国から450人を超えるベテラン選手たちが来県し、1週間にわたり熱い戦いを繰り広げている。こうした大会運営は、ボランティア精神で大会運営に携わってくださる協会員の協力なしにはできないことであり、選手や応援の方々から好評をいただいている。

さらに、普及事業として小学校や保育所、幼稚園などを訪問して、子どもたちとミニテニス活動を実施して、テニスの楽しさを伝えている。他にも「地域で取り組む生涯スポーツ推進事業」として島根県より委託された事業を実施しており、特別支援学級や障がいのある人のグループホームなどを訪問し、テニスを楽しむことで自立を支援している。この活動は松江市からも評価を受け、令和2年に「松江市障がいのある人もない人も共に住みよいまちづくり条例に基づく松江市長表彰」を授与された。



令和2年松江市長表彰状

## —— これから

高齢化や少子化の影響で、協会登録者、大会参加者は減少傾向にある。しかしながら、老若男女誰でも手軽に楽しめるテニスという素晴らしいスポーツの普及、選手の育成、大会運営、環境整備にこれからも努めていく必要がある。

また、新たな課題として、スポーツ団体にもガバナンスコードの順守が求められている。県協会では、理事会に併せて弁護士を講師に迎えてのコンプライアンス研修会を開催するなど、周囲から信頼される組織となることを目指して取り組んでいる。

2030年には「島根かみあり国スポ」が開催される。県協会も競技運営、選手強化に向けて準備を整えていく。これからもテニスを楽しむ協会員が協力して、先人から受け継いだバトンを後世に引き継いでいきたいと願っている。



平成28年 松岡修造氏を迎えてのテニスパーク